

基本理念

常に患者さんとご家族の立場に立って考え、行動します。
そして、医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、地域のニーズに応えるよう、職員一同頑張っています。

基本方針

- 1、信頼され、安全性の高い医療サービスを目指すため
職員の研鑽と協調に努めます
- 2、患者、家族、職員がお互いに尊重し合い、ともに喜び、
生き甲斐がもてるようチーム医療を推進します
- 3、地域に根ざした、住民とともに歩む病院（施設）を
目指します
- 4、病院（施設）の質を高め、健全経営に努めます
- 5、職業を通して、社会人としての豊かな人間性を養います



信頼される医療・福祉を目指して

医療法人和同会 -五日市和同会-



交通アクセス

- 自動車
西広島バイパス木舟交差点・波出石交差点から、
県道41号五日市・筒賀線を北に約10分
※駐車場をご利用ください
- バス
JR五日市駅（北口）より広電バス湯来線（藤の木団地行
・湯来ロッジ行）乗車、河内下城バス停より徒歩5分

〒731-5152 広島県広島市佐伯区五日市町下河内188-6
<http://www.gh.wadoukai.jp>

- 広島グリーンヒル病院
TEL 082-929-1110 FAX 082-927-2225
- 広島グリーンヒル病院介護医療院
TEL 082-927-2511 FAX 082-927-2225
- 介護老人保健施設 五日市幸楽苑
TEL 082-927-1611 FAX 082-927-2225
- 五日市幸楽苑 通所リハビリテーション
TEL 082-927-1611 FAX 082-927-2225
- 訪問看護ステーション ハローナース五日市
TEL 082-927-0700 FAX 082-929-1114
- 認知症対応型共同生活介護 グループホーム五日市
TEL 082-927-2511 FAX 082-927-2225
- 居宅介護支援事業所 なごみ
TEL 082-929-0753 FAX 082-927-2229

五日市和同会だより

第51号
令和6年9月

発行：広島グリーンヒル病院
編集：広報委員会



Photo by shio

自分を生きる

私たちの使命は、患者さん、ご利用者さんが自分らしく
生きられることの実現です。
1人ひとりが自分らしく生きるためには何が必要なのか、
私たちは考え、取り組んでいきます。

副院長就任ご挨拶



広島グリーンヒル病院
副院長 木戸幸司



今年3月長男の結婚式で訪れていた沖縄から帰って、お土産の「ちんすこう」を院内の各所に配っていたところ、院長と事務長から4月より副院長を務めるよう指示がありました。これまで循環器内科医として、人様の血管に管を入れたり、脈の乱れを戻したりむくみをとったりすることはやってきました。しかし出世はできず最高位は循環器医長（下は研修医が一人だけ）です。相撲でいえば十両がいきなり関脇になったようなものです。したがって副院長が何をすべきなのかよくわかっていません。いろいろ考えてみました。

健全な経営にこそ健全な医療が宿ると古くから言われています。また、病院運営は経営と医療とが車の両輪、みんなで力を合わせこれを回すようなものだと例えられます。当院も院長、看護部長、事務長が先頭でまた後方でみんなが一丸となりこの両輪を回しています。

古くから、会社で働く社員は、「知恵があるものは知恵を、それがないものは汗を、それもないものはせめて声を出せ」と言われています。私は知恵は昔からあまりないし汗は年取ってからあまりかかなくなりました。でも声だけは出るので「やっちゃんーや」と掛け声をかけることでお役に立ちたいと思っています。

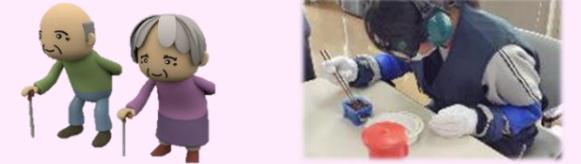
入院患者さんおよびその御家族の皆さん、そして他の医療機関の皆様からこれまで以上に「グリーンヒル病院に入院してよかった」あるいは「紹介してよかった」と言われるよう、その一助になることで副院長の職責を果たしたいと思っています。何卒よろしく願いいたします。

尚、この文章はmy own wordでAIの支援は受けていません



訪問看護ステーションハローナース五日市
理学療法士 森田秀紀

中学生高齢者疑似体験



7月2・3日に近隣の中学生6名が職場体験に来られました。未来の看護・介護を支えてくれるかもしれない若い人財です。当院の介護職を代表して「高齢者の疑似体験」を担当しました。「高齢者疑似体験」の目的は、高齢化に伴う身体の老化現象を疑似体験することで、身体的な不自由さやそれによって生じる高齢者の気持ちを理解することにあります。最初に高齢者の特徴をかみ砕きながら説明しました。真剣にメモを取りながら聞いてくれる姿が印象的でした。その後、特殊ゴーグルや手首と足首に各1kgほどの重りを着けて75～80歳位の疑似高齢者となり車椅子に乗って自分で漕いでもらったり、豆をお皿に移したりと様々な経験をしてもらいました。「いつもは当たり前に使えの箸が使えづらかった。歩く時にも足が上がらないので進むことも難しかった」等々の感想を聞きました。身体の不自由さを感じた経験をもとに、中学生の皆さんが高齢者の気持ちを想像していただけたらうれしいです。介護職はマイナスをゼロに戻すのが仕事ですが、中学生との関わりを通して、介護の難しさや教えることの難しさを改めて感じる事ができ、私たちにとっても良い経験の場となりました。

看護部 介護福祉士 奥内三哲



栄養開発

宮島名物を取り入れたメニュー



お品書き
六子飯
冬瓜のえびあんかけ
味噌汁
みみじ饅頭

食中毒予防期間中
食中毒予防の3原則
「つけない」
「ふやさない」
「やっつける」
をモットーに食中毒予防
に取り組んでいます!!

○スイカのお話○

暑い季節になると、甘みと爽やかな食感が魅力的なスイカを食べたくなる人も多いのではないでしょうか。スイカは水分が多いのが特徴ですが、ビタミンやミネラルを含んでいます。そのためスイカには身体を冷やす、のどを潤す、利尿作用、むくみを取るなどの作用があります。また、多くの人が捨ててしまう種や皮にも栄養が含まれています。普段は捨ててしまう皮ですが、浅漬けやピクルスにして美味しく食べられるため、余すことなく楽しみましょう。

在宅で人生の道のりに丁寧に関わりたい



訪問看護ステーションハローナース五日市には令和6年8月現在、リハビリ専門職8名（作業療法士3名・理学療法士4名・言語聴覚士1名）が在籍しています。そして、訪問エリアの佐伯区（旧湯来町を含む）と西区（の一部）で過ごされている160名余りの利用者さんの訪問リハビリに対応しており、1年間に90名程度の新規依頼があり、80名程度の方が利用終了となっています。訪問リハビリには期限がないため関与の長期化が懸念されていますが、一方で進行性疾患など状況によっては長期的な支援も求められています。

当事業所からの訪問リハビリでは呼吸器疾患、がん、神経筋疾患など病状が不安定な状態の方に関与することも少なくありません。しかし、地域の医師や介護支援専門員などの在宅スタッフの皆様方の支援に加えて、当事業所の看護師と連携して関わり緊急時などのバックアップを得ながら対応することができるので、在宅死での利用終了となるまで関与させていただくこともあります。なお、病院リハビリでは自宅・施設への退院や転院での利用終了となる事がほとんどであると思います。一方、訪問リハビリでは逝去・入院・入所・サービス変更などでの利用終了となりますが、その終着点は病院・施設・在宅での最期であるといえます。そして、在宅において最期まで関与する際には利用者さんやご家族の死生観や要望を尊重した上で緩和ケアの視点からの個別的な支援が求められると考えます。

「…嬉しいのに涙が溢れるのは 君が歩んできた道のりを知っているから…」 <SEKAINOOWARI「サザンカ」(2018)>という曲の一節がありますが、訪問リハビリにおいて利用者さんやご家族の在宅生活を支援するためにお一人お一人丁寧に対応した結果、療法士として嬉し涙を流せば良いと思っています。